



特集

1

新うつくしま、ふくしま。県民運動

豊かな自然や地域に根ざした文化、伝統、さらには温かな県民性が息づくふくしま。そんなふくしまを100年後までつないでいくことを目指して、新たな県民運動が始まりました。名称は…

100年後も… いきいき ふくしま うつくしま

③ 県民運動に込めた思い

県民一人一人が元気で、地域社会が活かに満ち、いきいきとしたふくしま。
本県の特徴を生かしながら、その時代時代にふさわしい社会を築き、次の世代や未来の世代へ受け継いで行こうという思いが名称に込められています。

④ ふくしまの地域力

一人一人のできることには限界があります。しかし、共通の目標に向かって、力を結集することによってあらゆる可能性が広がってきます。

また、この運動を通して、ふくしまに暮らす私たちが、お互いを信頼し、さまざまな課題に果敢に挑戦することで、特色ある地域社会に磨きをかけ、ふくしまの「地域力」を高めていきます。

⑤ 緊急課題への対応

県民運動を進めるにあたり、緊急に取り組むべきテーマは「子育てしやすい環境づくり」、「地域コミュニティの再生」、「環境問題への対応」の3つです。

それぞれに目標を定め、県民・家庭・町内会・学校・企業・市民団体・行政機関などが一体となり、その知恵と行動力を集め、課題解決につなげていきたいと考えています。

そのヒントになりそうな取り組みを次に紹介します。



「さまざまな人の助けがあったから、ここまでやってこれた」と話す理事長の青木美貴子さん

家族が急に病気になる時子どもをちゃんと預かって欲しい、子どもの送り迎えをして欲しいなどの子育て支援を有償で行うファミリー・サポート・センター。平成16年4月、子育てリーダーの養成講座の仲間が中心となりNPO法人を立ち上げ、町からその運営を引き受けました。子育て支援を受けたい人と支援を行いたい人がともに会員となり、互いに助け合う活動を行っています。

家族全体の総合的な支援が本当の意味でのファミリーサポートと考える「こころの森」では、子育て支援にとどまらず、介護保険が適用にならない高齢者の通院や買い物への付き添い、障がい者自立のための農作物の栽培、加工、販売なども行っています。地道な活動が「口コミ」で評判となり、支援の輪は年間約3000件にまで広がっています。

「新たな人材を確保し、地域とのつながりをさらに深めていきたい」と話す青木さん。活動への自信を胸に、ボランティアをはじめとするさまざまな人たちに助けられ歩む日々はこれからも続きます。

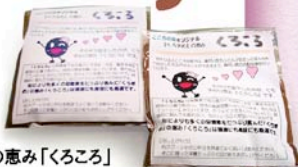
障がい者の自立支援にと作られている黒豆の恵み「くろころ」

会津坂下町

子育てしやすい環境づくり さまざまな人たちに助けられ 広がった支援の輪 ■ NPO法人こころの森

地域の
取り組み

「100年後も…いきいきふくしまうつくしま」



「無理をしないで、長い目で取り組みたい」と話す役員の方々

住民同士の絆を深める取り組みを始めています。その精神は「向こう三軒両隣」という古き良き伝統。「あいさつもできない町内会では助け合いはできませんから」と町内会長の本多さん。あいさつを交わすことから、思いやり、信頼関係を築いて、誰もが安全・安心に暮らせる町づくりを進めています。

皆さんは、ご自宅の隣にどんな人が住んでいるかご存知ですか？
最近、一人世帯の増加やプライバシーの問題などから、近所付き合いがなくなり、隣人の名前さえも知らないことが少なくありません。しかし、いざ災害が起きた時、頼れるのは隣同士。阪神大震災や新潟県中越沖地震では、普段から互いに助け合い協力し合っている地域ほど、被害が少なく、復興も早かったといわれています。

若宮地区町内会では、防災マップを作成して全戸に配布するなど、防災意識の啓発に努めるとともに、風化しつつある

二本松市

地域コミュニティの再生 あいさつもできなければ、 助け合いはできない。 ■ 二本松市若宮地区町内会



いわき市

環境問題への対応

環境に対する心を育てることが、問題解決への第一歩。■いわき市立中央台東小学校



ハイブリッドカーについて学ぶ児童 太陽光発電について学ぶ児童



親子エネルギー教室で燃料電池について学んでいる様子。



使用電力量グラフ 風力発電機であそぼう



原子力発電所見学

中央台東小学校の環境教育では、観察や実験、図書館活用、施設見学など、いろいろな方法で調べ、まとめ、発表する「調べ学習」を取り入れることで、児童が自らの意思でエネルギーや地球環境問題と向かい合い、考え、行動できる主体性を引き出します。

「日本のエネルギー自給率は4%しかないんだ」「世界中の国々とは仲良くすることが大切」「石油だけに依存するの

は問題、もっと新エネルギーを活用しないと」こうしたことに児童は学習を通して気付いていきました。さらに、小学生として今できることはないかと考え、節電、節水といった省エネにも自発的に取り組むようになったそうです。

遠回りに見えても、次代を担う子どもたちの環境に対する心を育てることが、地球温暖化などの環境問題解決への近道なのかもしれません。

用語解説

新エネルギーとは

石油に代わるエネルギーとして、技術的には実用化段階にあるものの、経済性の面から普及が十分でないエネルギーのこと。エネルギー源の性質により、①自然エネルギー（太陽光発電など）、②リサイクル・エネルギー（ごみを集めて発電する廃棄物発電など）、③従来型エネルギーの新しい形態（水素を利用した燃料電池など）の3つに分類される。日本の一次エネルギー全体に占める割合は約2%にとどまっており、より一層の導入促進が求められている。

一人一人ができることから始めよう！

県民運動にきまった形などありません。皆さんが普段行っている何気ない行動も県民運動の芽の一つかもしれません。

先人から受け取ったバトンをより良いものとして次の世代へ引き継いでいくことこそが、ふくしまの明るい未来につながるのではないのでしょうか。

いきいきと暮らせるふくしまを目指して



福島県知事 佐藤 雄平

日本は戦後の高度経済成長を経て、物中心の文化になってしまったと言われています。しかし、どんな時代であっても、地域における人と人とのふれあいや助け合いのように、変わってはならない大切なものがあります。

私たちは、地域に対する誇りや愛着を持ち、お互いを尊重しながら信頼関係を築き、助け合い、知恵を出し合って地域の良さを高め、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

100年後の未来まで、県民みんながいきいきと暮らせる、うつくしいふくしまであり続けるよう、皆さんとともに県民運動を進めていきたいと考えています。